

「特定非営利活動法人らぼーる」の活動を見学しました

2026年1月31日（土）に、くれ協働センター会議室（呉市役所1階）で開催された特定非営利活動法人らぼーる主催の「こどもドローン教室」を見学しました。



特定非営利活動法人らぼーるは、障害児・者、不登校や学校に行きづらい子どもたちとその家族、関係者に対して、療育のための支援、生活支援・就労支援、情報提供等の事業活動を行い、地域社会との連携を図る事により、だれもが住みやすい街づくり、福祉の増進を図り、社会全体の利益に寄与することを目的に、2011年に結成、2012年に法人化された団体です。今年度は、発達上の特性をもつ高校生や不登校経験のある高校生たちが、後輩である子どもたちの「行き場所づくり」に主体的に取り組みられました。その活動を通して、高校生自身が心の成長を遂げるとともに、自立に向けた力を身につけていくことを目指しておられるそうです。

今回は、小中学生を対象としたドローン教室が行われるということで見学に行ってみました。ドローンを飛ばす操作を行う体験教室なのかなと思いつつ見学に伺ったところ、広島減災・防災クラブと呉昭和自主防災連合協議会の皆さまを講師に迎えておられ、減災・防災についてもみんなで一緒に考えたり、体験したりと学びも多く得られるイベントでした。当日は、小中学生8名にその保護者やご家族、講師の先生やボランティアを含め、総勢28名参加の下、開催されました。

まず初めに、主催者である団体の理事長長尾さんのご挨拶があり、続いて運営側のメンバ

一紹介がありました。今回は、高校生3名がボランティアスタッフとして加わっておられ、運営全般を任されていました。

いよいよ、プログラムの開始です。進行役の高校生ボランティアさんから、アイスブレイクとして、ボランティアのお兄さん vs 参加者全員、同じくお姉さん vs 参加者全員でのじゃんけんゲームの勝ち抜け戦が行われ、じゃんけんをするたびに、参加者は一喜一憂。「やったー」の声や「えー負けたー」といった元気な声で会場内にはわかにかき活気づきました。どの勝負も勝ち残ったのは、子どもたちで、これから体験することへのワクワク感が増したようでした。

みんなの緊張がほぐれたところで、3班に分かれて、3つのプログラムを順番に巡りチャレンジしました。

プログラム①自然災害発生時危険クイズ：

災害時に危険な行動とは？地震や津波の際に危険な行動をしている人がいないか、イラストを使ってみんなで考えます。

地震が起こった直後の園庭の様子が描かれた絵が張り出され、講師から「地震が起きました！園庭の中央に集まるように、先生から指示が出ていま

す。さあ、建物やその周りはどうなっているかな？みんな何をしているかな？危ないことをしている人はいないかな？」など、声掛けがあり、「建物にひびが入っている」「煙が出ている」「喧嘩している人がいる」「園庭の外に逃げようとしている人がいる」「建物に入ろうとして先生の指示に従っていない人がいる」など、口々に気づいたことを発表し、何が危険なのかを考えていました。最後に、危険個所について答え合わせの絵が張り出され、解説を聞きました。続いて、津波が起こった際にどうするのが良いかを同様の手法で、みんなで考えました。



プログラム②ドローン（子ども用）レスキュー体験：

まず操作方法を教えてもらい、実際にドローンの操作にチャレンジしました。飛んでいるドローンが人にぶつからないように、網で囲った中にドローンを入れて、外から操作するというもので、安全管理がしっかりなされている中で取り組んでいました。

ミッションは、模型の山中に被災して倒れている人（金属の人形）をドローンの先についている磁石にくっつけて救助するというもの。子どもたちは、コントローラーを操作し、ドローンを目的地まで運び、決められた箇所に戻ってくる操作を一人2回ずつ行いました。みんな初めて操作したとのことでしたが、



上手にコントローラーを操作し、救助していました。
また、目的地上空に達するまで同じ班のメンバーは、
「もっと右！もっと手前！」など、位置情報を伝え、
みんなで協力し合い一体感を持って取り組んでいる姿が印象的でした。

プログラム③VR体験：

2018年の豪雨災害で被災した安芸郡坂町の2年後の様子（復興状況）をVRでドローンに乗って見に行く疑似体験を行いました。かなりの高さから見下ろすため、高所が苦手な人は気分が悪くなる可能性があるそうで、講師の皆さんは、「気持ち悪くない」「大丈夫」と何度も、声かけをしながら、すすめておられました。



子どもたちの体験が一通り終わった後、保護者の方も体験しておられました。同じ体験をすることで家庭でも会話が弾み気づき等が広がったことと思います。

1時間が過ぎた頃、休憩時間を取り、残りの時間は、自分の好きなプログラムに再度チャレンジする時間が設けられました。子どもたちは、目をキラキラ輝かせ、体験に熱中していました。

専門家の皆さんの指導の下、参加した子どもたちはみんな、チャレンジする楽しさやワクワク感を覚えるとともに、減災・防災に対する意識も高め、有意義な時間を過ごしていたようです。高校生ボランティアの皆さんも、子どもたちに優しく声掛けを行い楽しい雰囲気を作っておられるなど、運営をしっかりとリードされている姿が印象的でした。

今回のイベントは、なかなか体験できないドローンやVRを使ってみるだけでなく、減災・防災と組み合わせ学びを得るというよく考えられたプログラムだと感じました。参加された皆さんは、今回の経験をもとに、更なる学びや楽しみを見つけてもらえたらいいなと思いつつ会場を後にしました。

(本郷)

<参加者コメント>

♥ 小学生さん

・全部楽しかった！またやってみたい。

♥ 保護者の方

・本人は、事前にどんなことをするか具体的にイメージがわからないと不安になるので、会場に来るまで、とても億劫に思っていたみたいですが、ドローンの体験をしている姿を見ると、とても楽しそうで、来ることができて良かったです。このような機会を提供してもらって嬉しいです。

♥ 高校生ボランティア

・いろいろなボランティアをしています。今回は、紹介してもらって参加しました。毎回、子どもたちの楽しかったという感想を聞いたときに、達成感を感じています。

・今回、初めてボランティアに参加しました。とても楽しいし、やりがいがあります。子どもたちの笑顔を見るとやって良かったと思います。

・機会があれば、また是非参加したいです。